会　　議　　録

会議の名称	令和４年度第１回弘前市立博物館協議会
開催年月日	令和４年11月１日（火）
開始・終了時刻	午前10時から正午まで
開催場所	弘前市民会館　第２小会議室
議長等の氏名	瀧本壽史　委員長
出席者	委員長　瀧本壽史 副委員長　蝦名敦子 委員　山本正弘 委員　櫻庭全一 委員　出　佳奈子 委員　三上隆博 委員　大川　誠 委員　三上雪路
欠席者	委員　北原かな子
事務局職員の職氏名	博物館長　吉崎拓美 館長補佐　小林純子
会議の議題	（１）令和３年度事業報告 （２）令和４年度事業計画及び経過報告 （３）令和５年度事業計画
会議結果	下記会議内容に記載のとおり
会議資料の名称	令和４年度弘前市立博物館協議会資料
会議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	議長：今日の出席数は９名中８名でありますので、弘前市立博物館管理運営規則第３条第３項により成立していることをご報告します。次第にのっとりまして順次進めていきたいと思います。 それでは案件（１）令和３年度事業報告について事務局から説明をお願いいたします。 事務局：事務局説明 議長：ありがとうございました。この協議会は年１回ですので、去年のこと今年のこと来年のことと３年分をまとめてやらなければいけません。昨年度だけのことでお話もなかなかできないとは思いますが、とりあえず昨年度令和３年度の事業報告につきまして、疑問・ご意見がありましたらお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。 委員：学校団体見学の件について、希望によりとありますが、私の認識では家庭で博物館に連れてきてもらえない、また博物館に来る機会がない子どもたちに対して、学校などの団体で見学するという機会を与えるというのも博物館の重要な役割だと思っております。報告書に弘前市内の小中学校とあります。市内にどのくらい学校があるのか、総数は把握していませんが、これは全体のうち何割くらいの学校数なのでしょうか。 事務局：全体の何割というのは出していないが、市内の小中学校は合わせて約50校ありますので、その中で18校となりますと４割ぐらいになります。 委員：市外に関しては、希望があれば受け入れとなっていまして、一切学校名等について説明されていませんが、市外小中学校団体の受け入れはどういった

	状況なのでしょうか。 事務局：市外の小中学校でも市内の小中学校のように学校で見に来るというものもあれば、修学旅行のコースの中の一つに入っているので、もしかしたら何人か生徒が行くかもしれませんというご連絡をいただいているものもあったり、学校以外でも、デイサービスでまとまってきていただくとか、養護学校の高等部とかで来ていただくなどありまして、全部は拾ってきませんでした。 委員：中南地域はそんなに広い地域ではないけれども、車がないとなかなか来られないというような状況だと思うんです。そういった形で、弘前市内で限定しないで例えば中南地域とか広い目で見て、状況とか把握されているのですか。 事務局：一応市立博物館なので、まずは市内の小中学校の方に来ていただいた実績を拾って資料にしたということと、両館観覧、美術館と博物館の両方を見学に来ていただけるのであれば市のバスを手配するというのも市内の小中学校ということなどで、まずは市内小中学校への対応をやっています。ただ見学にいらっしゃるところに対しては対応に差があるわけではなくて、どの方がいらっしゃっても、もし解説が必要、解説の希望や、質問があればそれは市内の小中学校であってもなくても対応させていただいているので、今日の資料の中に市外分とか中弘南黒地区分を拾ったものを載せていなかったので、集計をとっていないので、ちょっとこの資料ではわかりにくかったと思います。 委員：今、委員がおっしゃった話は、確かに市立の博物館ですけれども、弘前市の博物館は弘前市もそうですが弘前市は地域の中心であるし、博物館規模としても中心となる博物館なので、津軽地域のどういうところから、あるいは県内のどういうところからきているのかという把握が必要かと思います。来館者がどちらからおいでになっているか、これもなかなか聞きにくいところはありますけれども、そういうことも情報を少しとるようにしていけば委員がおっしゃったような話につながっていくかと思います。市外の状況も把握していただければと思います。 委員：小中学校は大体何年生くらいが多く来ているのですか。 事務局：一番多いのは、やはり５・６年生が多いです。大体３・４・５・６の中にほぼ入ります。全校で来る場合もありますので、１年生２年生も入っていますけれども、大体学校で来る場合は、ほとんど４年生５年生６年生です。 委員：総合の時間とかそういう時間を利用してくるのですか。 事務局：何の時間で来ているかまではお聞きしていないのですが、校外学習で来ますとのことです。今、令和３年度の実績をお話ししているのですが、次の令和４年度に進むと、令和４年度の 10 月くらいまでの実績を載せていまして、こちらでお話しさせていただくと、例えば６月３日の石川小学校が石垣見学に追加とあるのですが、石川小学校が弘前城の石垣を見に来るという話だったので、小学校に電話して、ついでに博物館も見に来ませんかとお誘いしたものです。石垣を見学に来るのは大体５年生６年生、歴史で来るか、郷土学習で来るかなので、大体、４年生５年生６年生が来ています。 委員：社会の授業ですか。 事務局：社会の授業だったり、もしかしたら総合的な学習の時間で郷土を調べるなどということを４年生５年生で持つ学校もありますので、それで来ているとか、解説のご希望をお伺いするときに、お聞きしますと、歴史を勉強しているので、歴史のところの解説をお願いしたいとおっしゃる先生もいれば、実は

	公共施設に来たことがないので、公共施設にくる練習にもしたいとおっしゃる先生もいらっしゃるので、博物館に来たことがない子どもたちがたくさんいるようなので、そうなると、博物館は、まずは展示品に触っちゃいけないとか、静かに見るとか、そういう博物館の使い方みたいな、そういうところを勉強してもらうような、学芸員の解説の先頭にそういうことも入れてもらったりして、歴史だけとか美術だけとか、ご希望があればそうするんですけれども、全体的にご希望に応じてそういう導入のところも解説させていただきながら、博物館を見ていただいています。 委員：そこのあたり委員いかがですか。 委員：歴史的なことを調べるとなると、６年生になるので、あと、総合的な学習となれば３年生から入ってきますので、３年生から地域の博物館を利用させていただくということですね。それから先ほど出ました、公共の施設の使い方とかそういったことも３年生から出てきますので、やはり一番多いのは５年６年ですね、こちらのほうにお邪魔するのはやはり３年生以上からになっていると思います。 委員：卍学の関連ですか。 委員：そうですね卍学もあるのでやっています。 委員：今の小中学生のお話ですと、うちのボランティアガイドの会でも去年おととしコロナ禍になってからも一般の個人のお客さんとかはあまり来ていないんですけれども、小中学校は結構弘前市外からも公園の中を見たい、そのガイドをしてほしいと観光コンベンション協会を通してくるので、我々依頼ガイドとしてやり、中止になったものを含めれば相当あります。おととし１年は盛岡もあったし県外もありました。去年は、木造高校、十和田の小学校、横浜の町立の小学校とか、かなり小学校中学校の公園のガイドをしたので、より深く歴史を学ぶのであれば、博物館に行けばいいよというお誘いをするため、博物館のほうでコンベンション協会のほうからどこの学校が来るかという情報が得られれば、先ほどと同じようなお話、石垣のついでにどうですかみたいな話はですね、市外・県外から公園の見学に来る小学校にも話はできるかなと。増やすのであればそれは相当有効な方法だと思います。 委員：多分修学旅行とかはコースを決めてコースごとの中に博物館とかあるのだと思いますけれどもコンベンションの担当者から、博物館の情報を時期に合わせて博物館の常設展でもいいし特別企画展でもいいし、紹介はしておいてもいいと思います。 委員：情報交換によってまたボランティアガイドの皆さんの説明にも、きっとつながっていることがたくさんあると思います。公園内の博物館でありますので、ぜひ実践していただければなと思います。 議長：案件の２令和４年度の事業計画等について事務局の方からお願いいたします。 事務局：説明 議長：本年度の事業についての報告でした。昨年度との比較などご意見などありましたらお聞かせください。 委員：先ほどの令和３年度の学校団体の受け入れの中で、石垣を見にきたときに寄ってくださいというお話でしたが、そうではなくて、単純に言うと、同じ教育委員会の中なので、ただ、管轄があそこは緑地課なので違うのかもしれませんけ

	れども、もうすこし相互の連携をとって、一つの学校の歴史の教育のツールじゃないですけど、石垣を見て、石垣の歴史はこういうものだよ、回れるような、一つのパターンとして学校に配信したほうが、先生方も組みやすいのではないかと思います。例えば文化財課から歴史の勉強でバスを出すので来てくださいどうですか、でなくて、それに加えて博物館と高岡の森も見れますとか、そういう風にして歴史が満載ではないですけど、個々の、全部つながっていくわけじゃないですか、為信となっていくと特にそういう形ですこし子供たちに知ってもらいたいのであればもうちょっとやり方というか、せっかく素材はあるわけなので、それにちょっと加えながらもう少し工夫して皆さんに発信していただければと思います。私たちも今堀越城というところの業務管理もいただいて管理させてもらっていますけど、私たちはどうしても来ていただきたいということが主にあって、集客も含めて考えているんですけれども、どちらかというと文化系のものは自分たちが勉強しなさいというところがあるので、そうではなくて、現地に足を運んでもらってそのあと自分たちで勉強してもらってまた来てもらうというパターンが必要かと思っていて、興味がある人は勝手に来ますので、興味のない人をどれだけ引き寄せて興味を持たせるという感じですけれども、そういう風にしていくのも必要と思っているので、せっかく来た人に声かけるとしているものの、それを逆に石垣のことを見たら歴史のことは博物館にきて勉強しましょうみたいな感じにしてやったほうがより集客というか効率よく相互にいいのではないかと思いました。 事務局：文化財課の事業と最初から混ぜてしまうことの懸念が一つと、あと、石垣見学に来ていただいた学校は、大体行程として朝学校を出発して観光館バスプールについて追手門から入って弘前公園の中の石垣の現場を見学して博物館まで来るのに約１時間ちょっとなので、博物館につくのが１０時２０分くらいに来るんですけれども、学校として給食前までには帰りたいというのがあって、そうなると、博物館の見学時間は３０分、学校の場所によっては移動時間によって遠い学校は見学時間があまりとれなかったりというのもあって令和４年度は手探りで声かけをやってみたというところです。比較的人数が小さめの団体で、見学時間が 30 分くらい取れそうなところにだけ試しにお声がけをしたというのが令和４年度の石垣見学に追加と書いたものの内訳です。9 月 12 日に西小学校が来てくれた時は、石垣も見学して博物館も見学して、文化財ってこういうことだよねという勉強に使ってもらって、こういう使い方をしてもらえるとすごくいいなと思いましたが、なかなかそういうパッケージまでまだ作れていなくて、令和４年度はテストケースでやってみた結果ということになっています。 委員：給食の時間は、逆に言うと、パッケージにして１日こういうコースにするとしてしまえば、給食なしで弁当持ってきてであれば全然問題ないのでは。午前中は文化財課の対象物件だけをやります、午後は博物館の事業でやりますとすればクリアできると思います。 事務局：バスは往復なので。 委員：バスは、逆にすればよくて、行きだけ文化財課の事業で、帰りは博物館のを使うという方法にすればそこは解消できると思います。 事務局：そこはいいかどうか文化財課に聞いてみますし、あとはお昼ご飯を食べる場所を準備してあげられないのが問題で、天気が良ければ公園で食べられるが、雨が降ってしまうとご飯を食べる場所が博物館になくて、みなさん持ってき

	たお弁当をどこで食べるか問題となります。 委員：市役所の食堂で食べればいいのでは。 委員：今の話は、いろいろやり方はできるけれど、学校がそれに乗れるかだと思います。最初に言われたように、プログラムを作れるかだと思う。博物館と公園の石垣など文化財課や緑地課とそれぞれも持っているものをもとにしながらプログラムを作って、そのプログラムを学校の方で活用できるかどうか、一番活用しやすい形のプログラム作りが必要になってくると思う。そのプログラムづくりのなかでコンベンション協会のボランティアガイドなどとの産官の連携がなされていくのでは。また、この資料の中に文化財の保存はあるが研究部分がない。他の博物館にはどう活用していくかという研究部分もあり、いろいろなプログラム作成も含めて資料研究も進めてもらいたい。 委員：事務局の方でいろんなプランをできるかにかかっています。まず次の段階として組んでみて、先生たちにこういう風に組んでみたけど対応できますかと投げかけてみて、こういう問題があるとかから組み上げていった方がたぶんいいと思う。工夫していただければ来やすくなると思います。 議長：ほかにどうでしょう。 委員：今の件に関連して、かつては、いかに学校から来てほしいと思っても、乗り物とかがないからどうしてもいけないという状況でした。それが今バスまで出してくださるということで、大変良いと思います。もちろん学校は大変忙しいのですが。いろんなことを企画していって、学校だけではなくて観光ルートとして、弘前市においでいただくときに使えると思います。期待しております。 委員：一般の方に目を向けていきたいのですが、最近、企画展・特別展がとても充実していて見ごたえもあって、私は必ず毎回２回見に来ていますが、一方で周りの方に意見を聞きましたところ、ちょっと難しすぎるとか、敷居が高いとか、専門的すぎるというような意見もあります。例えば昨年だったらどんな展示を見に行ったかと聞くと、着物とかそういったところは結構多かったです。やはり学芸員は研究成果を展示に表すというのが企画展という認識ですが、人によって感じ方が違うというのがあります。学芸員の意図したことが観客に伝わっているのか、そういったところで、そういった声を吸い上げて反映していかなければ、これから博物館、いくら営利目的ではないにしても経営を考えなければいけないと思うので、やはり展示の後には簡単なアンケート、文字で記入するというよりも簡単に〇をつける、選択式ですとか、そういったことでアンケートをとるということは必要だと思うのですが、実際にそういったことはされているのでしょうか。 事務局：展示に関してのアンケートはとっていません。歴史講座や特別講演会などを行ったときは参加された５０名の方にアンケートを書いていただいていますが、一般の展示室をご覧になった後にというのは、やっていません。 委員：歴史講座では行っているけれども、それは歴史講座にだけ反映されるので、博物館全体のことではないので、やはり展示について、大人だけではなく子どもたちもせっかくこんなにたくさん来ているので、簡単にどうだったかという簡単なアンケート、それは学年によって違うと思うんですよね、実は常設展、子ども向けではないというのを何年か前の協議会の会議録であったんですけれども、子ども向けではないという展示を学校で来て見せて、子どもはどう感じて帰っているか、私はとても不思議に感じました。やはりどう思ったのが、ただ展

	示を見せるだけでは弱いというか、こちら主導になってしまうので、見る側の感想・意見はぜひ吸い上げてほしいと感じました。 事務局：常設展は、平成２８年ころに全面リニューアルしておりまして、その時には、小中学生にも分かるようにということで、漢字にふりがなを振るとか、子どもさんでもわかる対応で全面リニューアルしたと聞いているので、一応今の常設展は子どもさん、小中学生でもご覧いただいて大丈夫な展示内容にしているつもりです。 委員：ですが、全体的に文字の解説が多いと思いますので、大人が子ども向けにちょっと変えましたということに対して、子どもはどう感じているのか、という部分を聞く必要があると考えます。 委員：今言われている対象の子どもさんは何歳くらいか。小学校何年生くらい、１・２年生でないと思うが。 委員：３・４・５・６年生が学校で見学に来られている、その時だけでも、学校に帰ってからでもいいので、そういったことで情報を吸い上げるのが必要だと思いますし、あと、子どもたち、小・中学校、大人の間にはさまっている、いわゆる学生の年代に聞きましたところ、ほとんど博物館に行かないという残念な結果でして。 委員：１回いったことあるというレベルでしょうか。 委員：常設展でなくても企画展・特別展すら来ないというこの現状がちょっと考えていかなければいけないのではないかと思います。何のための、誰のための博物館ですかというところです。 委員：事後というか、展覧会見た後のアンケートは絶対必要だとは思います。子ども向けの展示は、ただ字が読めればいいわけじゃなくて、子どもが興味関心を引くような展示方法というのもいろいろなところがいろいろな施設で工夫しているところなので、参考になるところがたくさんあると思います。 あと、なかなか美術館、企画展にも行かない人たちがたくさんいるというのは、当然と言えば当然なのですけど、どこまで来てくれるであろう人たちの意見をどうやってどこまで吸い上げるべきところかどうかは悩むところです。来た後のアンケートは来る人の声なので、来ない人の声ではない、来ない人の声を吸い上げていくことも本来はやったほうがいい、今後の企画展にそういう声を反映させるべきかさせないべきかはまた違うところで考えることと思います。 委員：アンケートの話は、以前の協議会でも出ている。アンケートは必要だということで。この市立博物館は、常設展だけの時はない。企画展の中に常設展が入っている、あるいは常設展を基盤にした企画展をやっている。そのこともあり、常設展自体は、他の博物館から見ると非常に充実している、常設展もそうだが企画展のアンケートについてはぜひお考えいただきたい。アンケートの取り方については、ＳＮＳとかを活用すれば、今書いてもらう必要は何もなく統計もすぐとれる。来ない人の声については、ここだけの話ではなくて、県全体の話でもあるので、もし機会があれば博物館等協議会の場、県全体の協議会の中で県全体取り組みとしてやっていただいた方がいいと思うのでその辺も考えていただければと思います。 事務局：来館者等々の声はこちらとしても把握したいところがありますので、アンケートの取り方について、紙ベースがいいのか、ＳＮＳのアンケート方式がいいのか、検討していきながら、実施に向けて検討してまいりたいと考えていま

	す。貴重なご意見ありがとうございます。 委員：今の、歴史や、アンケートや、一番最初に話をしていたプランを作るという、小学校で卍学とかで子どもたちに歴史をという話で、私たち生徒を預かってガイドをしているだとか、ボランティアガイドをやっていることにつながっていくと思うのですが、ガイドされる方たちが高齢化している、ほとんど年配の方が多くて。もう一つ、私も恥ずかしながら、就職するまで弘前のことをまるっきり知らなかった。そのまま県外に出ているんですけれども、出てみて分かったのですが、弘前は意外と都会だったということと、歴史がちょっとあったということだった。でもう一つ、他県の人たちと交流すると、自分の土地の歴史を知っている人たちが多いです。私たち小さいときに弘前市の歴史を勉強したかというと、なかなかしてなかったという部分があるので、博物館とか文化財課とかで取り組んでいるこういうやり方というのは非常にいいことなので、私たちガイドでやったりする側からすると、後継者を育てていかなければならない、100 人のうち１人でも２人でも興味持ってガイドやってくれると、それがずっとつながっていくということになってくるので、少し歴史に興味がある方たちを育ててあげるような取り組みをしていたければと思います。実際博物館とか弘前城だけとかそういうのではなくて、公共施設でやっていったりする歴史を含めてですけど、説明する人たちがいると、興味あってまた来てくれるとか、博物館だけにかかわらず、弘前の市だけのものに関してでも、もう少しせっかくあるものを覚えていって、みんなで PR していくことが必要かなあと思いますので発言させてもらいました。 委員：学校で歴史の関係の時間がどんどん少なくなっていて、基本市内小学校中学校では卍学を取り入れているので、地域の歴史を学習するにあたり、博物館は重要な施設だと思う。学芸員の方が解説してくれてそれがとても子どもたちわかりやすくて。 委員：子どもたちにわかりやすく解説してくれるというのは大事なことです。 委員：情報発信のところで、インスタグラムを拝見していますがとてもいいと思います。一つ付け加えるとすれば、獅子舞などの無形文化財についてユーチューブを使ってホームページでいろいろ流す場合がありますよね。そのような場合も、インスタライブを利用すると公園内など近くにいらっしゃる人が見に来られるのではないでしょうか。SNS は日々変化していますし、SNS は若い人たちだけかと思っていらっしゃるかもしれないですが最近は 60 を過ぎた方でも、今インスタの時代だよとか、インスタは本当にリアルタイムで発信できるので、今後少し活用を考えていただければと思います。 委員：美術関係者はツイッターをよく使っています。プラットフォームによってどういう人がよく見ているのかがちょっと違ったりしているので、その辺も計算に入れるとうまく活用できる気がします。 委員：たくさんの人がリアルタイムに情報を得ることができる時代なので、これからも情報発信よろしくお願いしたい。 委員：博物館の運営に関わっている方はどのくらいいらっしゃるのですか。 事務局：職員は、館長含め、あと会計年度任用職員も全部含めますと現在 12 人です。 委員：一度事務室を見せていただくと、狭い感じです。１２名といっても、休日、休館日がないので、入れ替わりでやっていますので、常時いるとなると、そうで

	もない感じですね。学芸員が毎日いるかというとそうでもなく、質問が来ても即座に答えられないというのが実はあるんです。今、企画展が全部で５本という、普通にはないくらいハードな、しかも少ない学芸員でやっているので、職員の方負担が大きい訳です、加えてイベントもあるわけで、とても忙しい。今後は人員の増と言いますか、職員の増員も図りながら、文化の拠点としての博物館としてもう少しやっていただければと思います。 議長：ほかにどうでしょうか。それでは、これまでのことを踏まえて、来年度はどうなるのか、令和５年度の事業計画について事務局のほうからお願いします。 事務局：令和５年度事業計画説明 議長：来年度に向けて、こんなことをということをお話しいただきたいと思います。 委員：遺跡の出土品の展示の件です。来年やってほしいということではなく、ずっと今まで考えていたことなんですけど、今後検討していただきたいと思っています。常設展示の中で入ってすぐ最初のところに、十腰内２の遺跡、それから大森勝山、それから砂沢遺跡と３つありますね。ちょうど縄文の後期・晩期、弥生の初期ということでそれぞれ解説してあります。私は、大森勝山のガイドの会にも今年から発足したので入っています。大森勝山は、ストーンサークル、環状列石が主なところなんですけど、出土品はないのかとお客さんに聞かれると裾野の交流センターに行くとありますよと答えています。大森勝山というのは、その縄文の後期から、弥生の砂沢にいくその間、それが大森勝山です。それでこの十腰内とその砂沢の話もするんですけど、出てきたものはどこに行ったんですかという話になるんです。その時は十腰内２は有名な猪形土製品、いのっち、それは博物館にあります、ほかのものも数点展示していますと答えています。あとは、砂沢遺跡は、日本最古の水田跡ですから大変有名で教科書にも載っているということで、それの出土品はどこにありますかと、それも博物館に行くとなんぼかありますと。市の文化財のリストを調べると、いのっちと砂沢遺跡の土器は重要文化財ですよね。砂沢遺跡の土器は 230 点プラス稲の粒が重要文化財になっているんですけれども、その 230 点もあるものどこに収蔵しているんだとなります。考えてみたら、以前藤田記念庭園に考古館が、今は匠館ですか、あそこにかなりのスペースで砂沢遺跡の遺跡の説明とか土器があって、私はたまたま入ってすごいなあと思い、そこで砂沢遺跡を知ったんですけれども、やっぱりその全貌を明らかにするためには市の教育委員会の文化財課の方と連携しないとなかなか企画展とか、展示できないと思うんです。最低でも博物館で収蔵してあるものをもう少し市民の目に触れるようにしてもいいのではないか。で、私はすでに遅いと思っているんですけれども、去年世界遺産になって 17 の構成資産のうちの１つが大森勝山が弘前市で初めての世界遺産ですよ。世界遺産になったにも関わらず、もうちょっと大森勝山について、博物館に限らず市全体の視点として、なんか弱いなと思うんです。これを機会に、十腰内と大森勝山と砂沢の３つ、もう少し市民の関心を集めるよう展示できないか。常設展示は、あのコーナーで今年１年、本当は世界遺産登録１周年ぐらいで、縄文遺跡、砂沢含めて１回どーんとやれば、だいぶ市民の関心も出てくると思うんです。それが博物館の仕事かどうかは私はわかりません。やはりそれは市の文化財課だとかということになるんだろうと思うんですけれども、収蔵しているもの、遺跡そのものではなくて出土品を収蔵しているのがここだとすれば、ここでポンと出して、博物館が

	中心となって企画展みたいなものを今年でも来年度でもいいので、今やらないと市民の関心が薄れるかなと。 委員：ここしばらく考古資料の展示というのはなかったですかね。博物館の学芸員の専門もあるので難しい点もあるかもしれませんが、企画としては悪くないのでぜひご検討いただければと思います。 委員：さきほど小学校が３施設を利用とか、市でバス出しているとか出たんですけど、ちょっと観光になってしまう話で博物館だけの話ではないかもしれないんですけれども、ここに来年度の計画の中で歴史館とれんが倉庫美術館と連携を取りますとあるんですけれども、大森勝山もそうなんですが高岡の森まで行くのに、バスとかで行こうとすると意外とアクセスが悪いですよね。なので、これはさっきの観光の話になってしまうのですが、市としてやれる中でいったときに博物館めぐりではないんですけど、れんが倉庫美術館と歴史館とこの博物館と、一般の方でも行けるような、日は限定してもいいでしょうけど、そういうツアーをやる、市のバス出せるのであれば、そういう企画も一つあっていいのではないかと、そうすると一般の方にも見たいところに行けるという、料金とってもいいです、入館料プラス何とかとやってもよくて、一般の方のアピールできるのではないかと思いますので、今は予算編成中でできないかもしれないんですけれども、今後のやり方としては、同じ種類のものを回れるような交通アクセスを含めたやり方をやっていけば、集客・周知につながっていくのではと思います。そうすると観光の方やっぱり大森勝山に行きたいんですとなると、１時間に１本しかバスありませんでは、あとレンタカーで行くしかない、あと高岡の森は、岩木山神社までのバスあるがそれでも１時間に１本・２時間に１本となるのとやはり大変ですよね、岩木山神社とか高照神社とかには弘前城も含めて行きたいという人は多分いらっしゃるはずなので、そういう面で行けば、アクセスを行政の方で考えてもらってやると、博物館も見られるし、石垣も見られるし、そういう風にできるのではないかと思うんです。周知集客につながっていく、また来ようかなと、そうなれば自分たちでパック組んできてくれる方もいらっしゃると思うので、最初の足掛かりでちょっとやってあげたりするとおもしろいかなと。高岡の森まで遠いなと思ったので、ちょっとそういうものも今後やっていくとおもしろい、みなさん飛びつくと思いました。 委員：観光の話、バスツアーとかやる場合に、観光業の免許必要なんですよね。コンベンションのほうでそういうツアー組みで旅行会社のほうに内容を提示してその中で設計してもらうんですけれども、そういう中で入れてもらえるように情報発信はしているところなんです。今言われている高岡の森は遠いので、あるいは大森勝山の方も、相当時間とらないと行けないですけれども、タクシーの方で、２時間大森勝山コースとか、タクシー会社のほうも今観光の方に力を入れてきているので、旅行者の方は７千円払ってでも２・３人でくれば頭割りすればたぶん使う人も出るだろうし、ただ今おっしゃった話の過渡期にあるんですよ。一般の方のコンベンションのほうのツアーに参加してガイドさん付けてお話聞きながら回るの楽しいよみたいなものをちょうどしていくような、ボランティアガイドの方も結構忙しくなってくると思います。そういう流れはあるように思います。 委員：今インスタ見ていて、古津軽オフィシャルってあるんですけどあれどこがやっているのですか。

	事務局：県の中南地域県民局です。 委員：こういう傾向のものって若者にすごくウケるだろうなと思って、こういうところと連携すると、何かそれこそいい事業が思い浮かぶような気がしました。 事務局：中南の方とは、何かあったら入れてとお話ししてあります。 委員：中南地域県民局と話をしてコンベンションのツアーの中に組み込むと、古津軽の件だけれども、それはグランピオニーのほうでツアーに組み込む内容を今設計しながら、ツアーの窓口はコンベンションと、連携は今とれていると、で、さっきちょっと委員から子どもたちの卍学の話で出たんですけれども、今観光というのは名所を見に行く、団体でツアーを組んで観光地を回るというのではなく、個人でツアーしながら地域のことを知るツアーのほうが今人気があるんです。その中で、弘前としては、地元のことをよく知っていれば、その人が弘前になる、ホテルの人だったり、ショップの人だったり、それが今の旅行の仕方の流れなんです。地元の人が地元のことを知るのはすごく大事なことで、で、博物館の方は我々地元の人が地元のことを知る場所になっている。以前の展覧会で浮世絵、月岡芳年ですか、私もカタログ買ったんですけれども、ちょっとびっくりしたのが、ねぷた絵につながっていっていますよね、残酷絵というのが。でねぷた絵師の人たちも、自分たちの描いているのが浮世絵からの流れなのに気づいて、最近、錦絵というんですねねぷた絵のことを。その 40 代のねぷたの絵を描く人たちが、自分たちは錦絵作家だと発言するようになったと、これは、たぶん博物館で浮世絵とねぷた絵のつながりが見えたので、その先を自分たちが表現しているみたいな人が若干いるんですよ。それすごくうれしかったので、博物館の位置づけとしては、そういう学習面もありますけど、文化の発信地でもある。それは観光の方でも来た方が博物館はかたいかなと思って考える人あるんだけど、結局は行けば地元のことをやっていると思いました。 委員：観光に関連することなんですけれども、令和５年から博物館法変わりますよね、今まで本当に純粋に教育施設な役割だったのが、観光客、営業するというようにシフトする、変化していかなければならない、そういう役割も担わなければならないというところで、やはり、学び、楽しく学ぶというような企画ですね、情報発信してほしいなあと思います。また、一方で、勉強会というようなものなんですけれども、そういった定期的に継続した形で行われる勉強会はないですよね。 事務局：はい。 委員：お忙しいのは重々承知なんですけれども、定期的に足を運ぶ、そういう、クラブ活動的な、歴史クラブ的なものがあればもっと皆さん喜ぶと思いますし、それが、大人対象のと、あと小学生対象・中学生対象のものがあって、それはいつも学芸員さんがやらなくても、例えば、そういう場を提供して、自主学習の場ということで、市内各地からいろんな学校の人が集まって、その時間は違う学校のお友達と時間を共有して弘前の歴史について勉強するとか、そういう機会があると横のつながりも広がり、もっと発信していき、みんなで楽しく学べば知識も深まっていくので、そういう企画を考えていただければと思います。 委員：今の話、博物館の中に学習室とかがあれば、博物館の資料を使ってそういうことをやることはできないことはないかと思います。また、学習についても、博物館に来てもらわなくてもオンラインでも工夫次第でできるのではないでしょうか。

	委員：博物館の目的や役割は、実物にふれるというところなので、今日はこれを勉強しよう、というところで博物館に足を運ぶということが大事だなと思っていて、オンラインはオンラインでとても良くて、それも方法の一つと思いますけれども、まず博物館に足を運ぶ、実物にふれる、欲を言えば触れる、触るのは難しいと思うんですけど、中には触れるものがあると思います。子どもは触って経験してそれが身になっていくのがとても多いと思うので、いつもではないんですけれども、そういう機会があればという希望です。 委員：博物館に何があるかわからないとやれないということもあるかもしれません。ただし所蔵機関がデジタルアーカイブで公開すれば、市、個々の博物館にはないけれども県にいったらあるというように、情報交換によってここでやらなくてもそういう学習機会ができると思います。 委員：今の博物館に足を運んでもらうに関連するんですけれども、中身でなくて、建物の話です。前川の作品が市内にたくさんあるということで、特に公園の中に３つありますよね、すぐそばに市役所があって、中央高校の講堂があって、公園に来ると前川の建築があるということで、結構、東京の建築科の学生が来たり、前川ファンにとってはほとんど聖地というような感じですけれども、そういう意味で、公園の中にある緑の相談所については準備室とか以外は大体自由に入れて、外側ももちろん中も自由に見れる、市民会館も外観はもちろん中も見れる、事前に申し込みすればホールも見せてもらえると思うんですけれども、ただ一つ博物館だけはなんかそれは簡単にいかない、入場料払わないと中に入れないという格好になっていると思います。たまに企画展で重要なものがあるときは警備員さんもいたりですね、すごい敷居が高いという市民の方多いと思います。やっぱりそういうことを考えますと、中の企画は別として、１階のロビーもものすごいガラス張りで、設計した前川自身があそこでお茶を飲むのが楽しみだと、大のお気に入りの空間です。展示物に興味なくてもそれぐらいいい空間で、岩木山見えて、未申櫓見えて、すごくいいところだから１回行ってお茶を飲んでみたいなというような市民が足を運べるように、年１回無料開放日とか、無料開館というのをやったらどうなのか、という気がしているんですよ。おそらく博物館の条例とかいろいろ絡むから、簡単にいかない、議会も絡むからそう簡単にはいかないと思うんですけれども、やっぱり一回ですね、博物館にはあんまり関心ない、１回も行ったことのない人でも無料だから行ってみるかというような企画を１回やれば、その機会に足を運ぶ、意外にいいなと、とまた通常の無料でないときにも来る人いるかもしれないなと思うので、年１回くらい無料の開放日をやってみればどうかなということを提案したかった。 委員：博物館で無料の開放というものありませんでしたか。 事務局：過去にやったことあります、年に１回というか、何かにつけて無料開放日をやった実績は記録を見ればあるようですが、そのまま無料にするのは、何か考えてもっと提案しないと通らない状態になっています。 議長：それではたくさんご意見などをいただきましたがこれで今日の案件については終了いたします。さらにご意見のある委員は随時博物館の方へ行ってお話しくだされば と思います。新しい委員の中での第１回の協議会でございました。次回は来年ということになりますが、この間博物館の状況をご覧いただきながら展覧会の方もご覧くだされば と思います。それでは議長は事務局のほうにお返しします。

その他必要事項	・会議は公開 ・傍聴者数　0 人